

公開シンポジウム

# 周縁労働の拡大・再編と外国人労働者 —技能実習生、日系人とその家族、支援の実相—

日時：2018年4月22日（日曜）午後1:30～5:30

場所：龍谷大学大阪梅田キャンパス研修室

ヒルトンプラザウエストオフィスタワー 14 階

\* 申し込み不要

## スピーカー

- ・ 旗手 明（自由人権協会）
- ・ リリアン テルミ ハタノ（近畿大学）
- ・ 甄 凱（外国人労働者救済支援センター）

## コメンテーター

- ・ 川越 道子（大阪市立大学）
- ・ 坂梨 健太（龍谷大学）
- ・ 飯田 悠哉（京都大学大学院）

司会：崔 博憲（広島国際学院大学）

主催：トヨタ財団共同研究助成「現代日本における周縁労働市場の再編を移動する者たちの視点から理解する—新しい支援スキームの構築のために—」

共催：科研基盤B「人口減少社会における外国人労働力再編に関する研究」

\* 連絡・お問い合わせ:migrants.marginal.labormarket@gmail.com

\* 閉会后、懇親会を開催します。当日参加も可能ですが、参加予定の方はできるだけ事前にご連絡ください。

近年、日本では国外から多くの労働力を調達するための法制度の改定が進められています。そうした中、日本人が敬遠しがちな職種に組み込まれる外国人労働者の法的・社会的な立場の弱さが問題となり続けています。本シンポジウムでは、こうした現代日本における労働市場の再編の実態をとらえ、また2020年の東京オリンピック後の労働市場の変化を見定めるために、①技能実習制度に代表される「ローテーション労働力」政策下で来日する人々、②1990年代以降、景気の変動に揺さぶられながらも日本の製造業を支え続けてきた日系人とその家族、③外国人労働者が直面する困難と支援の取り組み、の3点に焦点をあて、ゲストスピーカーにお話しいただき、議論します。いま、日本の周辺の労働が誰によってどのように支えられているのか、彼／彼女たちがいかなる困難に直面しているのかを具体的に明らかにするとともに、研究、支援、そして当事者という複合的な視座から、グローバル化時代に対応しうる新たな研究・支援・連帯の可能性を考えます。

## 2018年4月22日(日) 龍谷大学梅田キャンパス

13:00～ 開場

13:30 開会挨拶・趣旨説明

13:45～

旗手 明

「外国人労働者政策の現在と技能実習生」

リリアン テルミ ハタノ

「在日ブラジル人とその家族のこれまでと現在  
一次世代の子どもたちの教育の観点から」

甄 凱・技能実習生

「技能実習生支援の現場から」  
—休憩—

16:30～コメント:

川越 道子/ 坂梨 健太/ 飯田 悠哉

17:00～全体討論・質疑応答

17:30 閉会

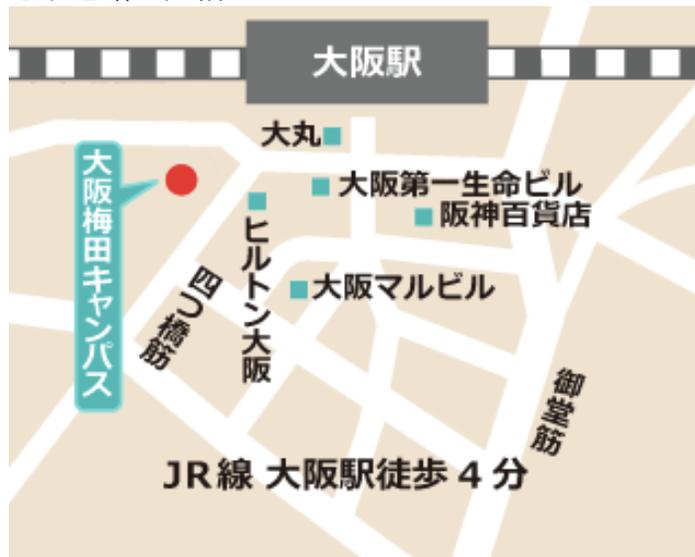
### 会場へのアクセス

ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階

JR「大阪駅」桜橋出口より徒歩4分

大阪市営地下鉄四つ橋線「西梅田駅」3番出口

地下通路で直結



## 旗手 明(ハタテ アキラ)

公益社団法人自由人権協会理事。1980年代より外国人労働者問題に関わる。1999年に「外国人研修生問題ネットワーク」(「外国人技能実習生権利ネットワーク」の前身)を立ち上げ、2015年より移住連で技能実習分野を担当する運営委員を務める。著作・論文に『まやかしの外国人研修制度』『外国人・民族的マイノリティ人権白書』『なぜ今、移民問題か』『本格化する外国人労働者受入れ政策(上・下)』など。

## リリアン テルミ ハタノ

近畿大学総合社会学部准教授。専門は教育社会学、在日外国人研究、多文化共生論。ブラジル人学校やニューカマーの教育について研究。著作、論文に『外国人の子ども白書』『マイノリティの名前はどのように扱われているかー日本の公立学校におけるニューカマーの場合』『多文化家族を感じるー在日ブラジル人の思い』(川村千鶴子編『3.11後の多文化家族』)など。

## 甄 凱(ケン カイ)

外国人労働者支援救済センター所長。1986年に中国から留学生として来日し、東洋大学を卒業後、日本の紳士服メーカー勤務、中華料理店経営などを経て、岐阜一般労働組合で外国人の労働問題を担当する専従職員となる。現在、岐阜を拠点に全国各地の技能実習生問題に取り組む。